

彦馬ゆかりの絶景ポイント

銭屋川

写真に見る
115年前の長崎

日露戦争時代

姫野 順一

□ 28 □

写真①は、明治30年代に撮られた銭屋川(中島川上流)の上野彦馬邸付近である。川の名前は江戸初期にあった銭所に由来する。右に少し写る水道柱が彦馬の写真館の場所。「日本写真の開祖」とい

れる、早死する」といった迷信のため、庶民はカメラの前に立つことを恐れたが、やがてあるがままを写す写真に興味を示すようになった。また長崎を訪問する諸藩の武士や志士、来航した外国人らが頻りに彦馬の写真館を訪れた。

明治時代には「ビードロ(ガラス)の家」と呼ばれた豪華なスタジオが建ち、繁盛した彦馬の屋敷の外壁は土塀から武家風の白塀に塗り替えられていた。

川幅が広がる絶景ポイントであり、幕末に彦馬スタジオを訪問したベアトが撮影した写真②や、彦馬自身が撮影した写真③など、建物と景観の変化が分かる写真が残されている。

写真①の右側の堤防は明治30年ごろ築かれた。30年代に

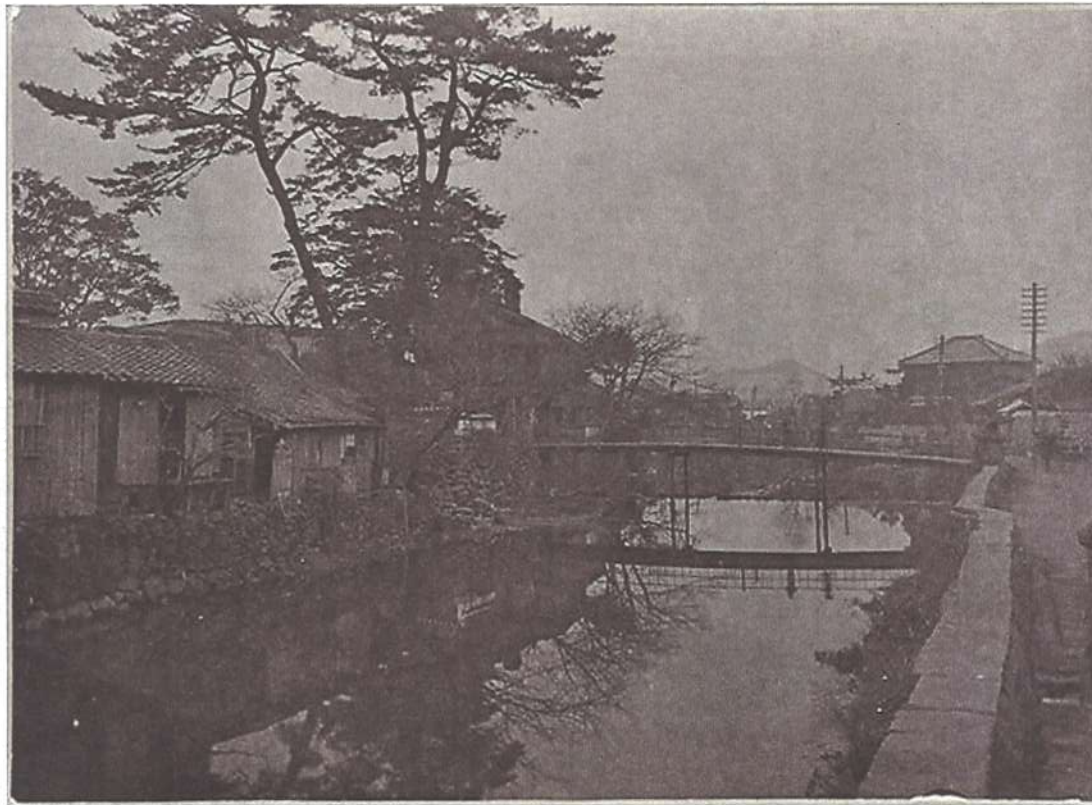
左側の木造の家屋は川そばが台所のようで、木の洗面盤が干され、水ための木桶が外に置かれている。屋内からは手作りの板縁が涼みどころとして張り出している。

江戸時代には堤防のない自然の川であった銭屋川である

随時掲載します



長崎外国語大のホームページでQRコード



①明治30年代の銭屋川(竹下佳行撮影、長崎外国語大所蔵)



②元治元(1864)年の銭屋川(フェリックス・ベアト撮影、長崎大附属図書館所蔵)



③明治7(1874)年ごろの銭屋川(上野彦馬撮影、長崎大附属図書館所蔵)